

株式会社齒愛メディカル

証券コード 3540

第25期 定時株主総会 招集ご通知

日時 2025年3月21日（金曜日）
午後1時

場所 石川県能美市福島町に152番地
株式会社齒愛メディカル
本社 大ホール

証券コード 3540
(発送日) 2025年3月6日
(電子提供措置の開始日) 2025年2月28日

株 主 各 位

(本店所在地)
石川県白山市鹿島町一号9番地1
(本社事務所)
石川県能美市福島町に152番地
株式会社 歯愛メディカル
代表取締役社長 清水 清人

第25期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第25期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、以下のウェブサイトアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

当社ウェブサイト <https://ci-medical.co.jp>

(上記ウェブサイトアクセスいただき、メニューより「IR情報」「株式について」「株主総会」を順にご選択いただきご確認ください。)



また、電子提供措置事項は、当社ウェブサイトのほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下よりご確認ください。

東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



(上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、「銘柄名(会社名)」に「歯愛メディカル」又は「コード」に当社証券コード「3540」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)

なお、当日のご出席に代えて、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2025年3月19日（水曜日）午後6時までには到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2025年3月21日（金曜日）午後1時
2. 場 所 石川県能美市福島町に152番地
株式会社歯愛メディカル 本社大ホール
3. 目的事項
報告事項
 1. 第25期（2024年1月1日から2024年12月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第25期（2024年1月1日から2024年12月31日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
 - 第1号議案 剰余金処分の件
 - 第2号議案 取締役7名選任の件
 - 第3号議案 監査役2名選任の件
4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）
書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の当社ウェブサイト及び東証ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載させていただきます。

本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。

# 事業報告

(2024年1月1日から)  
(2024年12月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当連結会計年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、経済活動の正常化やインバウンド消費の増加により、緩やかな景気の持ち直しが見られる一方で、ウクライナ情勢の長期化やエネルギー価格・原材料価格の高止まりの影響、また急激な為替変動などにより、依然として不安定な状況が続いております。

このような経済状況の中、歯科関連業界におきましては、歯科医療費が引き続き増加傾向にあるなど、国内歯科関連業界全体の事業環境は緩やかな回復が見られるものの、急激な円安などの影響により先行きが不透明な状況が続いております。こうした中でも、歯科治療領域でのデンタルソリューション関連装置等がマーケットを牽引することにより、歯科機器・用品マーケットの増加傾向は続く見通しです。

当社につきましては主に歯科関連商品、衣料品及びインテリア雑貨などを扱う通信販売事業を中心に、「通信販売、大型機器販売、歯科DXの3本柱による歯科医療発展への貢献」「お客様に選ばれるファーストコールカンパニーへ」「新本社ロジスティクスセンターの能力最大化からグループサプライチェーンの最適化による競争優位性の確立」を成長戦略として、各事業の拡大に取り組んでまいりました。

2023年10月2日に竣工した新本社ロジスティクスセンターにおきましては、2023年9月よりテスト入出荷を開始したことから前第3四半期より同センターに係る減価償却が開始し、同センターの立ち上げに想定以上に時間を要した上、令和6年能登半島地震の影響もあり同センターへの完全移転が予定より遅れ、その間旧センターと並行稼働となりコスト増となったこと、賃上げ実施の影響に伴う人件費増加等により、販売費及び一般管理費が増加しております。また、後述の株式会社ニッセンホールディングス及び株式会社白鳩の子会社化に伴う株式取得関連費用等が発生したことも販売費及び一般管理費の増加の要因となっております。なお、2024年3月末に当社の同センターへの移転が完了し、2024年5月末にて当社子会社（株式会社デンタルフィット）を含めた同センターへの完全移転が完了しております。現在は安定稼働しており、出荷能力の増強も実現いたしました。今後も引き続き商品保管・出荷能力、低

コストオペレーション能力を増強していく想定です。

なお、2024年7月1日付で株式会社ニッセンホールディングスの株式を100%取得し、新規連結したことにより、第3四半期より同社グループの業績が反映されたため、売上高は大幅に増加いたしました。主要な取得費用については第3四半期に計上しております。また、同社グループの取得時時価純資産と同社株式取得価額の差額相当について負ののれん発生益（特別利益）を計上しております。よって、当連結会計年度におきましては、同社グループ子会社化の影響により、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても増加いたしました。

前連結会計年度において持分法適用関連会社化した株式会社白鳩につきましては、当連結会計年度中に当該企業の普通株式を金融商品取引法による公開買付けにより取得し、当社の連結子会社といたしました。主要な取得費用については第4四半期に計上しております。みなし取得日は2024年11月末となり、当連結会計年度におきましては貸借対照表のみを連結しております。なお、2023年12月1日から2024年11月30日までの業績は営業外収益の「持分法による投資利益」に含めて計上しております。当社を含めた通信販売事業を主とする3社間の協業により、相互の顧客網を活用した販売チャネルの拡大や、物流機能の効率的な運用等に取り組むことで、さらなる売上高の拡大及び収益改善を目指し、シナジー効果を最大限発揮できるよう取り組んでまいります。

以上のような背景のもと、当連結会計年度における売上高は674億93百万円（前期比47.9%増）、営業利益は24億93百万円（同16.6%減）、経常利益は26億21百万円（同20.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は62億66百万円（同200.9%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

従来、当社グループの報告セグメントは「通信販売事業」の1つとしておりましたが、株式会社ニッセンホールディングス及び株式会社白鳩の連結子会社化に伴い、当連結会計年度において事業セグメントの区分方法の見直しを行うことといたしました。その結果、当社の報告セグメントは、「歯愛メディカル事業」、「ニッセン事業」、「白鳩事業」の3つへ変更しております。

なお、2024年7月1日付で株式会社ニッセンホールディングス、2024年12月20日付で株式会社白鳩を子会社化したため、前年同期比較は記載しておりません。

### (歯愛メディカル事業)

歯科関連商品を扱う通信販売事業を中心に、新商品の販売及び個人医院・総合病院等の医療業界及び動物病院業界への参入拡大を引き続き進めるとともに、歯科医院及び動物病院等へ大型医療機器（デジタルレントゲン医療機器等）を販売しており、当社主催のデンタルショーや新機種投入等の効果もあり、確実に実績を積み重ねております。後述するCAD/CAM歯科技工関連機器・システム販売と併せまして、これら大型医療機器等の当連結会計年度の売上高は43億3百万円にまで拡大しております。その一方で利益面では、円安基調や原材料価格の高騰の影響による商品調達価格上昇の影響が続いておりますが、2024年6月と11月に歯科通販総合カタログを発刊し、価格改定により収益改善を図っております。また、歯科以外の通販事業におきましても、順次価格改定を実施しております。

CAD/CAM歯科技工関連機器・システム販売事業及びCAD/CAM歯科技工物製作事業においては、2024年6月のIOS（口腔内スキャナ）の保険収載および歯科業界のDX化に伴うCADソフトウェアの販売増により、経営成績は堅調に推移いたしました。歯科医院等の医療機関取引先向け電力小売取次事業「C i でんき」におきましても、電力市場価格高騰の影響を当社で負担していることの影響を受けており前第1四半期では赤字となっておりますが、取引条件の見直し及び事業経費削減等の施策により、前第2四半期より黒字に転じ収益が回復したため、現在積極的に営業活動を行っております。

歯愛メディカル事業売上高は497億69百万円（前期比9.1%増）、営業利益は20億41百万円（同31.7%減）となりました。

### (ニッセン事業)

当連結会計年度において新たに当社の連結子会社になった株式会社ニッセンホールディングス、株式会社ニッセン、株式会社ニッセンライフ、株式会社アド究舎、株式会社マロンスタイルの5社については、歯愛メディカル事業および白鳩事業とのシナジー最大化を目指し、ナースウェア事業を開始するなど取り扱い商品の拡充や新たなお客様へのアプローチにチャレンジするとともに、業績回復のための徹底した経費削減に取り組んでおります。

主力事業会社である、衣料品、インテリア雑貨などの通販事業を営む株式会社ニッセンにおいては、nissen、ブランドMVV（Mission Vision Value）に基づき、期待以上のお客様本位の売場、商品構成の改革を継続して進めており、株式会社マロンスタイルにおいては、大きいサイズのレディース服に商品を絞り、この領域で、かわいい服・センスのいいECサイトを創ることに集中してまいりました。

また、生命保険の募集に関する業務及び損害保険代理業を営む株式会社ニッセンライフ、ク

レジットカード事業を営むニッセン・クレジットサービス株式会社においても「お客様本位の業務運営方針」を掲げ、ご利用いただいているお客様の大切な生活をお守りし、お客様のお買い物をより便利に、より快適にするための取組みを継続して進めており、広告代理店事業を営む株式会社アド究舎においても、全国2万カ所の店舗メディアを強みにしたリアルプロモーションサービスを展開するなど、商品特性と親和性のあるメディア・チャネルを究め、斬新なメディアの開発にも力を入れ新たな挑戦をし継続しております。

ニッセン事業売上高は177億24百万円、営業利益は6億4百万円となりました。

#### (白鳩事業)

前連結会計年度において持分法適用関連会社化した株式会社白鳩につきまして、当連結会計年度中に当該企業の普通株式を金融商品取引法による公開買付けにより取得し、当社の連結子会社といたしました。みなし取得日は2024年11月末となり、当連結会計年度におきましては貸借対照表のみを連結しております。なお、2023年12月1日から2024年11月30日までの業績は営業外収益の「持分法による投資利益」に含めて計上しております。

#### ② 設備投資の状況

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は、12億30百万円であります。  
その主なものは、新物流センター用地9億52百万円であります。

#### ③ 資金調達の状況

当社グループの所要資金については、自己資金及び銀行借入にて調達した資金を充当しております。当連結会計年度末の有利子負債残高は212億10百万円であります。

## (2) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                        | 第 22 期<br>(2021年12月期) | 第 23 期<br>(2022年12月期) | 第 24 期<br>(2023年12月期) | 第 25 期<br>(当連結会計年度)<br>(2024年12月期) |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------------------|
| 売 上 高 (百万円)                | 41,205                | 42,891                | 45,628                | 67,493                             |
| 経 常 利 益 (百万円)              | 4,605                 | 3,889                 | 3,295                 | 2,621                              |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 (百万円)  | 2,820                 | 2,521                 | 2,082                 | 6,266                              |
| 1 株 当 た り<br>当 期 純 利 益 (円) | 56.42                 | 50.43                 | 41.65                 | 125.34                             |
| 総 資 産 (百万円)                | 19,915                | 30,186                | 41,506                | 63,166                             |
| 純 資 産 (百万円)                | 15,977                | 18,280                | 20,139                | 27,396                             |
| 1 株 当 た り 純 資 産 額 (円)      | 319.55                | 364.33                | 401.17                | 521.91                             |

- (注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第23期の期首から適用しており、第23期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。
2. 当社は、2024年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っておりますが、第22期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益金額および1株当たり純資産額を算定しております。



② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分                        | 第 22 期<br>(2021年12月期) | 第 23 期<br>(2022年12月期) | 第 24 期<br>(2023年12月期) | 第 25 期<br>(当事業年度)<br>(2024年12月期) |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 売 上 高 (百万円)                | 40,050                | 41,454                | 43,072                | 47,068                           |
| 経 常 利 益 (百万円)              | 4,595                 | 3,848                 | 2,961                 | 1,699                            |
| 当 期 純 利 益 (百万円)            | 2,926                 | 2,582                 | 1,948                 | 1,167                            |
| 1 株 当 た り<br>当 期 純 利 益 (円) | 58.53                 | 51.65                 | 38.97                 | 23.34                            |
| 総 資 産 (百万円)                | 19,545                | 29,536                | 40,819                | 43,184                           |
| 純 資 産 (百万円)                | 15,803                | 18,103                | 19,811                | 20,750                           |
| 1 株 当 た り 純 資 産 額 (円)      | 316.08                | 362.08                | 396.24                | 415.02                           |

- (注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第23期の期首から適用しており、第23期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。
2. 当社は、2024年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っておりますが、第22期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益金額および1株当たり純資産額を算定しております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名                     | 資 本 金     | 当社の<br>議決権比率   | 主 要 な 事 業 内 容            |
|---------------------------|-----------|----------------|--------------------------|
| 株 式 会 社 デ ン タ ル フ ィ ッ ト   | 10百万円     | 100%           | 個人向け歯科関連商品通信販売事業         |
| 株 式 会 社 デ ミ ラ イ ン         | 10百万円     | 100%           | 歯科材料等通信販売事業              |
| 株 式 会 社 R a y V i s i o n | 1百万円      | 100%           | 医療機器販売事業                 |
| 株式会社C i ロジスティクスセンター       | 10百万円     | 100%           | 倉庫業、物流コンサルティング<br>業等     |
| 株 式 会 社 サ ク ラ 歯 研         | 3百万円      | 100%           | 歯科技工所                    |
| 株 式 会 社 T D S             | 5百万円      | 51%            | 歯科技工所                    |
| 株 式 会 社 ナ イ キ 歯 研         | 4百万円      | 100%           | 歯科技工所                    |
| 株式会社ニッセンホールディングス          | 28,873百万円 | 100%           | ニッセングループ成長戦略の立案等         |
| 株 式 会 社 ニ ッ セ ン           | 100百万円    | 100%<br>(100%) | 衣料品、インテリア雑貨などの<br>通信販売事業 |
| 株 式 会 社 ニ ッ セ ン ラ イ フ     | 100百万円    | 100%<br>(100%) | 生命保険の募集に関する業務等           |
| 株 式 会 社 ア ド 究 舎           | 10百万円     | 100%<br>(100%) | 広告代理業等                   |
| 株 式 会 社 マ ロ ン ス タ イ ル     | 10百万円     | 100%<br>(100%) | アパレルEC「CLETTE(クレット)」の運営  |
| 株 式 会 社 白 鳩               | 1,196百万円  | 50%            | インナーウェアのインターネット<br>販売等   |

(注) 1. 当連結会計年度に、株式会社ニッセンホールディングスおよび株式会社白鳩を子会社化したため、株式会社ニッセンホールディングス、株式会社ニッセン、株式会社ニッセンライフ、株式会社アド究舎、株式会社マロンスタイル、株式会社白鳩の6社を連結の範囲に含めております。

2. 議決権比率の( )内の数値は、間接保有による議決権比率を内数で表記しております。

③ 特定完全子会社に関する事項

該当事項はありません。

④ その他の重要な企業結合の状況

エア・ウォーター株式会社は、当社の議決権を38.3%所有しており、当社はエア・ウォーター株式会社の持分法適用の関連会社であります。

#### (4) 対処すべき課題

当社グループの主たる事業領域である歯科関連業界におきましては、歯科医療費が引き続き増加傾向にあるなど、国内歯科関連業界全体の事業環境は緩やかな回復が見られるものの、デジタル化の進展により市場環境は大きく変化しており、世界規模での企業間競争が激化するなど、厳しい事業環境が続いております。

歯科業界における通信販売マーケットについては、一般消耗品、特にP B製品を中心としたコストパフォーマンスの高い商品の購入増加による通販マーケットの拡大は続くものの、NB製品を主とした診療用材料・機器については卸業者との棲み分け（購入経路選択の成熟化）が進み、通信販売市場の増加率は緩やかになると見込まれます。

また、当連結会計年度において株式会社ニッセンホールディングスの株式を100%取得し新規連結したこと、インナーウェアのEコマース（インターネット販売）事業を展開しております株式会社白鳩株式の追加取得をしたことで持分法適用関連会社から連結子会社としたことから、衣料品及びインテリア雑貨などを取り扱うB to C向け通販事業の領域を拡大しております。

このような中、当社は2025年12月期から2027年12月期までの3年間を対象とした中期経営計画「C i X 2027」を策定し、2024年12月25日付でお知らせしております。中期経営計画の基本方針として3つの成長戦略である（1）通信販売、大型機器販売、歯科DXの3本柱による歯科医療発展への貢献、（2）お客様に選ばれる「ファーストコールカンパニー」へ、（3）新本社ロジスティクスセンターの能力最大化からグループサプライチェーンの最適化による競争優位性の確立により、今後も更なる成長を志向してまいります。

当社にとって2025年度は設立25周年の年であります。その節目の年を初年度とする中期経営計画を着実に達成し、次の25年、さらにはその先の成長に繋げてまいります。

これらにより、当社が対処すべき当面の課題としては、下記があげられます。

##### ① 経営管理体制の強化

当社は、企業規模拡大の基礎となる経営管理体制、コーポレート・ガバナンスをより強化し、事業運営上の問題点の把握、コンプライアンスの徹底、適切なディスクロージャーやIR活動に取り組むことが企業価値の向上に繋がるものと認識しております。

##### ② 人材の育成及び確保

経営資源の重要要素である人材については、社員教育や研修制度の充実、コミュニケーションの活性化、適材適所での潜在能力の発揮等を推進し、一人当たりの生産性向上を図ります。

また、事業の拡大に伴い、新規の採用活動についても積極的に取り組んでまいります。

### ③ 歯科医院以外の分野

当社のサービスは、全国約7万軒の歯科医院のうち6万軒にご利用をいただいております。

このため、歯科医院以外への新たな分野の開拓が課題となっております。今後も歯科医院以外の医科や介護・福祉施設、動物病院、理美容業界、幼稚園・保育園業界、衣料品及びインテリア雑貨などを取り扱うB to C向け通販事業の領域など顧客拡大を目指してまいります。

招集し通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

(5) **主要な事業内容** (2024年12月31日現在)

当社グループは、主に歯科関連商品、衣料品及びインテリア雑貨などを扱う通信販売等を主たる業務としております。「先生とその患者さんに喜ばれたい。更に社員、取引先に喜んでもらえる会社になりたい」という考えのもと、デンタルケア製品の企画・販売を中心にさまざまな事業を展開しております。徹底した「お客様視点」を重視し、当社が商品開発及び企画し商品化された商品の仕入、販売まで一貫して手掛ける体制を特徴としており、低価格・高品質である「欲しかった商品」の開発に努力してまいりました。また、コールセンター、カスタマーサポート、ロジスティクスセンター等の内製化を強化したことにより、より安価な販売価格の実現に繋がっており、全国およそ6万軒の歯科医院に納品し、歯科業界での歯ブラシ販売本数、また歯科通販売上高ではトップシェア（「オールアンドディ」歯科業界における通信販売の動向調査資料：「歯科機器・用品年鑑2025年版」より）となっております。

(6) **主要な営業所及び工場** (2024年12月31日現在)

① 当社

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 当<br>社 | 本社（事務所・倉庫）：石川県能美市         |
|        | 第1ロジスティクスセンター（倉庫）：石川県白山市  |
|        | 第2ロジスティクスセンター（倉庫）：石川県能美郡  |
|        | 第3ロジスティクスセンター（倉庫）：石川県白山市  |
|        | 東京ショールーム：東京都千代田区          |
|        | 新大阪ショールーム：大阪府大阪市東淀川区      |
|        | 名古屋営業所：愛知県名古屋市西区          |
|        | 福岡営業所：福岡県福岡市博多区           |
|        | 広島営業所：広島県広島市西区            |
|        | 岐阜羽島リアルクリニックショールーム：岐阜県羽島市 |

② 子会社

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 株式会社デンタルフィット        | 本社（事務所）：石川県白山市      |
| 株式会社デミライン           | 本社（事務所）：東京都港区       |
| 株式会社Ray Vision      | 本社（事務所）：埼玉県さいたま市大宮区 |
| 株式会社C i ロジスティクスセンター | 本社（事務所）：石川県白山市      |
| 株式会社サクラ歯研           | 本社（事務所）：大阪府堺市北区     |
| 株式会社T D S           | 本社（事務所）：神奈川県横浜市青葉区  |
| 株式会社ナイキ歯研           | 本社（事務所）：大阪府枚方市      |
| 株式会社ニッセンホールディングス    | 本社（事務所）：京都府京都市南区    |
| 株式会社ニッセン            | 本社（事務所）：京都府京都市南区    |
| 株式会社ニッセンライフ         | 本社（事務所）：京都府京都市南区    |
| 株式会社アド究舎            | 本社（事務所）：東京都新宿区      |
| 株式会社マロンスタイル         | 本社（事務所）：大阪府大阪市北区    |
| 株式会社白鳩              | 本社（事務所）：京都府京都市伏見区   |

(7) 使用人の状況（2024年12月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 事業区分      | 使用人数          | 前連結会計年度末比増減   |
|-----------|---------------|---------------|
| 歯愛メディカル事業 | 485 (363) 名   | 12名増 (132名減)  |
| ニッセン事業    | 543 (369) 名   | － (－)         |
| 白鳩事業      | 84 (49) 名     | － (－)         |
| 合計        | 1,112 (781) 名 | 639名増 (286名増) |

- (注) 1. 使用人数は、正社員と契約社員の合計で出向者を除きます。臨時雇用者数（パートタイマー、アルバイト）は、（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 前連結会計年度に比べ639名増加したのは、2024年7月1日付で株式会社ニッセンホールディングス、2024年12月20日付で株式会社白鳩を子会社化したためであります。
3. 当連結会計年度よりセグメント変更を行っており、歯愛メディカル事業の前連結会計年度末比増減は、変更後のセグメント区分に基づいております。なお、ニッセン事業および白鳩事業につきましては、セグメント別の前連結会計年度末比増減は記載しておりません。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数        | 前事業年度末比増減   | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|-------------|-------------|-------|--------|
| 306名 (229名) | 11名増 (38名減) | 40.7歳 | 5.9年   |

(注) 使用人数は、正社員と契約社員の合計で出向者を除きます。臨時雇用者数（パートタイマー、アルバイト）は、（ ）内に1日8時間換算による年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況（2024年12月31日現在）

| 借入先        | 借入金残高     |
|------------|-----------|
| 株式会社三井住友銀行 | 14,100百万円 |
| 株式会社みずほ銀行  | 3,500百万円  |
| シンジケートローン  | 2,920百万円  |

(注) シンジケートローンは、株式会社三菱UFJ銀行を主幹事とする計5行からの協調融資によるものであります。

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。



## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2024年12月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 200,000,000株  
(注) 2024年7月1日付で実施した株式分割 (普通株式1株を5株に分割) に伴い、発行可能株式総数は160,000,000株増加しております。
- ② 発行済株式の総数 50,000,000株  
(注) 2024年7月1日付で実施した株式分割 (普通株式1株を5株に分割) に伴い、発行済株式の総数は40,000,000株増加しております。
- ③ 株主数 2,727名
- ④ 大株主 (上位10名)

| 株主名                                                       | 持株数          | 持株比率   |
|-----------------------------------------------------------|--------------|--------|
| 清水 清人                                                     | 23,364,200 株 | 46.73% |
| エア・ウォーター株式会社                                              | 19,146,900 株 | 38.29% |
| 井村 俊哉                                                     | 2,371,500 株  | 4.74%  |
| BBH FOR FIDELITY<br>LOW-PRICED STOCK FUND                 | 475,771 株    | 0.95%  |
| 株式会社日本カストディ銀行 (信託口)                                       | 334,000 株    | 0.67%  |
| J P モルガン証券株式会社                                            | 233,370 株    | 0.47%  |
| モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社                                      | 165,060 株    | 0.33%  |
| 川村 孝士                                                     | 140,500 株    | 0.28%  |
| 中西 裕介                                                     | 140,000 株    | 0.28%  |
| BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM<br>GCM CLIENT ACCTS M ILM FE | 132,863 株    | 0.27%  |

(注) 持株比率は自己株式数 (941株) を控除して計算しております。

## (2) 会社役員 の 状況

### ① 取締役及び監査役の状況 (2024年12月31日現在)

| 会社における地位 | 氏 名   | 担当及び重要な兼職の状況                                                                                     |
|----------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長  | 清水 清人 | 株式会社デンタルフィット代表取締役会長<br>株式会社デミライン代表取締役会長<br>株式会社C i ロジスティクスセンター代表取締役社長<br>株式会社ニッセンホールディングス代表取締役会長 |
| 専務取締役    | 小林 良充 | 株式会社RayVision代表取締役社長                                                                             |
| 常務取締役    | 山内 昌晴 | 株式会社白鳩取締役<br>株式会社ニッセンホールディングス取締役                                                                 |
| 取締役      | 河端 直典 | ロジスティクスセンター長                                                                                     |
| 取締役      | 三好 誠治 | 経営管理部長                                                                                           |
| 取締役      | 奥澤 明  |                                                                                                  |
| 取締役      | 平野 茂樹 |                                                                                                  |
| 常勤監査役    | 宮下 友保 | 株式会社デンタルフィット監査役<br>株式会社デミライン監査役<br>株式会社RayVision監査役                                              |
| 監査役      | 園部 敏之 |                                                                                                  |
| 監査役      | 斉藤 一浩 |                                                                                                  |

- (注) 1. 取締役奥澤明及び平野茂樹は、社外取締役であります。  
 2. 監査役園部敏之及び斉藤一浩は、社外監査役であります。  
 3. 当社は執行役員制度を導入しております。期末日現在の執行役員数は下記の4名であり、取締役との兼務はございません。

|      |               |        |
|------|---------------|--------|
| 執行役員 | システム部長        | 山田 卓夫  |
| 執行役員 | 商品部第2Gメディカル部長 | 高岡 直也  |
| 執行役員 | 商品部第1G部長      | 渡部 敬祐  |
| 執行役員 | カスタマーサポート部長   | 小酒 理恵子 |

4. 当社は、社外取締役である奥澤明及び平野茂樹、社外監査役である園部敏之を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

② 取締役及び監査役の報酬等

イ. 取締役及び監査役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は、株主総会においてその総枠を決議し、取締役会は代表取締役社長清水清人に対し、取締役報酬の配分の決定を委任しております。委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の担当部門について評価を行うには、代表取締役社長が適していると判断したためであります。また、監査役報酬は監査役の協議により決定することとしております。

当社の取締役の報酬に関する株主総会決議年月日は2016年3月29日であり、当該株主総会終結時点の取締役の員数は4名であります。また、監査役の報酬に関する株主総会決議年月日は2012年3月30日であり、当該株主総会終結時点の監査役の員数は1名であります。決議の内容は次のとおりであります。

(取締役報酬)

総額を年額200百万円以内としております。

(監査役報酬)

総額を年額10百万円以内としております。

ロ. 取締役及び監査役の報酬等の額

| 区 分             | 員 数        | 報 酬 等 の 額        |
|-----------------|------------|------------------|
| 取 締 役           | 7名         | 122百万円           |
| 監 査 役           | 2名         | 5百万円             |
| 合 計<br>(うち社外役員) | 9名<br>(3名) | 128百万円<br>(8百万円) |

(注)

1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務役員の使用人分給与等は含まれておりません。
2. 取締役及び監査役の報酬については、業績等を勘案した月例の固定報酬制としております。
3. 上表の監査役の員数が当事業年度末日の監査役の員数と相違しておりますのは、無報酬の監査役1名(うち社外監査役1名)を除いているためであります。

③ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

該当事項はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

|           | 出席状況、発言状況及び<br>社外取締役が期待される役割に関して行った職務の概要                                                                                                     |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 奥澤 明  | 当事業年度に開催された取締役会19回すべてに出席いたしました。期待された役割に基づき、主に長年にわたる企業経営の豊富な経験と実績を生かし、経営から独立した客観的・中立的な立場から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。            |
| 取締役 平野 茂樹 | 当事業年度に開催された取締役会19回すべてに出席いたしました。期待された役割に基づき、主に上場会社の取締役及び海外子会社の会長としての豊富な経験と実績を生かし、経営から独立した客観的・中立的な立場から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。 |
| 監査役 園部 敏之 | 当事業年度に開催された取締役会14回に出席いたしました。また、開催された監査役会14回に出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において、主に金融機関経験者としての専門的見地から、意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。                 |
| 監査役 斉藤 一浩 | 当事業年度に開催された取締役会19回すべてに出席いたしました。また、開催された監査役会15回すべてに出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において、主に財務並びに人事総務等に関する豊富な経験及び専門的な見地から適宜発言を行っております。                   |

ハ. 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

### (3) 会計監査人の状況

① 名称 アーク有限責任監査法人

#### ② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額 |
|-------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 32百万円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 78百万円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

3. 当社の子会社である株式会社白鳩は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けておりません。

#### ③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

#### ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### 3. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要

#### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

##### ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ. コンプライアンス体制の基礎として、当社グループ役員及び従業員が法令等を遵守し、社会倫理を尊重した行動を実践するための行動指針となる「経営理念・行動指針」を制定し、社会倫理と遵法精神の教育啓蒙並びに法令遵守に関するルールの整備を進める。

ロ. 当社グループの従業員等がコンプライアンス上疑義のある行為等を知った場合に、職制ルートを経さず、直接監査役及び社外弁護士等に報告、相談を行うことができる「内部通報制度運用規程」を設け、問題の早期発見・未然防止を図り、適切かつ迅速に対応を行う体制とする。

ハ. 取締役は、定期的又は必要に応じて随時開催する取締役会において、業務執行の状況を報告するとともに、相互にその業務執行を監督する。また、監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準に基づき、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、子会社を含む業務執行状況の調査等を通じて、当社グループの取締役の職務執行について監査する。

ニ. 内部監査部門は、「内部監査規程」及び内部監査計画に基づき、当社グループの業務活動については社内規則及び法令に対する遵守状況等を内部監査する。また、内部監査の結果については、代表取締役並びに監査役に報告する体制とする。

##### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録、稟議決裁書類等の職務執行に係る情報については、文書又は電磁的媒体（以下「文書等」という）に記録し、文書管理に関する「文書管理規程」に基づき、適切かつ確実に保存及び管理する。また、取締役、監査役又は内部監査部門がこれらの文書等の閲覧を要請した場合には、直ちに提出できる体制とする。

##### ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

イ. 当社グループの事業活動におけるリスクマネジメントの指導を適切に行うため、「リスクマネジメント委員会」を設置し、当社グループを横断的に管理する体制とする。

ロ. 情報セキュリティに係る個別リスクについては、「情報セキュリティ規程」に基づき、教育研修の実施等を行うとともに、事前審査や決裁制度を通じて当社グループにおける当該リスクを管理する体制とする。

- ハ. 事業活動への影響が大きいと想定されるリスクが発生した場合には、「リスクマネジメント管理規程」に基づき、直ちに対策本部を社内を設置し、発生したリスクに対し迅速かつ適切に対処する体制とする。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ. 当社は、適正かつ効率的な職務の執行を確保するための「組織規程」、「職務権限規程」において業務分掌並びに意思決定に関する権限を定め、各取締役及び執行役員の権限と責任の明確化を図る。また、子会社においてもこれに準拠した体制を構築する。
- ロ. 取締役会で選任された執行役員への権限委譲により、広範囲にわたる事業及び業務領域における意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を図る。なお、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を機動的に構築するため、取締役及び執行役員の任期は、それぞれ1年とする。
- ハ. 取締役会において中期経営計画を定め、それに基づく主要経営目標を設定する。併せて年度毎の事業内容別の事業戦略並びに売上計画及び子会社別の事業戦略並びに売上・利益計画を設定し、その実績を月次単位で管理することにより、効率的な取締役の職務執行を確保する。
- ⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 監査役及び内部監査部門は、子会社の監査役と連携して子会社の監査を定期的を実施し、当社グループにおける業務執行の適正を確保する。
- ロ. 関係会社規程において各子会社を主管する経営管理部門のほか、各子会社が当社に対して報告並びに事前承認を求めるべき事項を明確化し、子会社から当社への報告体制を整備するとともに、子会社に関する一定の重要事項については当社の取締役会においても審議する。
- ハ. 金融商品取引法に基づき、当社グループの財務報告の信頼性と適正性を確保するため、財務報告に係る内部統制の体制構築に関する基本計画を定め、これに基づき有効かつ適正な評価を行うため、「内部統制システム基本方針」に基づき、「内部統制運用規程」を適切に運用する。
- ⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役がこの職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、早期に体制を整備し、必要な人員を配置する。

- ⑦ 上記⑥の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人は、業務執行上の指揮命令系統には属さず監査役の指揮命令に従うこととし、当該使用人の任命、異動、評価等に関しては、監査役会の事前の同意を得たうえで決定するものとする。

- ⑧ 監査役への報告に関する体制

イ. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制

監査役が、重要な意思決定のプロセスや業務執行の状況を詳細に把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、稟議決裁書類その他の業務執行に関する文書等いつでも閲覧し、必要に応じて取締役及び使用人にその職務の執行の状況報告を求めることができる体制とする。

ロ. 子会社の取締役、監査役、業務を執行する社員及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告するための体制

取締役及び使用人は、監査役又は監査役会に対して、法定の事項に加えて、当社グループの経営に重要な影響を及ぼすおそれのある事実、内部監査の実施状況並びに監査の必要上において報告を求められた職務執行の状況について、速やかに報告する体制とする。

- ⑨ 上記⑧の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社の監査役への報告を行った当社グループの取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由にして不利な取扱いを行わないものとする。

- ⑩ 監査役の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役が職務執行について生じる費用の前払又は償還等を請求したときは、当該監査役の職務執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

- ⑪ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役が、代表取締役、会計監査人、内部監査部門と定期的に意見交換の機会を持ち、監査上の意見及び情報の交換を行うことにより監査の実効性を確保できる体制とする。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

イ. 主要な会議の開催状況として、取締役会は19回開催され、取締役の職務執行の適法性の確保及び適正性を高めるため、当社と利害関係を有しない社外監査役が全てに出席いたしました。



また取締役会のほか、監査役会を15回開催いたしました。

- ロ. 監査役は、監査役会において定めた監査計画に基づき、監査を行うとともに、当社代表取締役及び他の取締役、内部監査部門並びに会計監査人との間で意見交換を実施し、情報交換等の連携を図っております。
- ハ. 内部監査部門は、内部監査計画に基づき、各部門の業務執行の監査を実施しております。

#### 4. 剰余金の配当等の決定に関する方針

##### (1) 利益配分に関する基本方針

当社は、継続的な企業価値の向上を図るべく経営基盤の強化を進めていくと同時に、株主への利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。このため、剰余金の配当につきましても、中長期的な成長のため戦略的投資等に必要な内部留保の充実に留意しつつ、親会社株主に帰属する当期純利益の約10%を配当性向の目標にして、将来にわたって業績に見合った安定的な配当を行なうことを基本方針としております。

##### (2) 当期の剰余金の配当

当期の剰余金の配当については、普通配当としての期末配当金は1株当たり12円53銭とさせていただきます。

##### (3) 次期の剰余金の配当

次期の剰余金の配当については、①の利益配分に関する基本方針に基づいて、業績の進捗や事業環境等を勘案して決定する予定です。また、次期については経済産業省「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の入金による財務体質の向上を見込んでおります。そうした状況も勘案した上で、利益配分に関する基本方針の見直しを検討してまいります。

#### 5. 会社の支配に関する基本方針

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者は、安定的な成長を目指し、企業価値の極大化・株主共同の利益の増強に経営資源の集中を図るべきと考えております。

現時点では特別な買収防衛策は導入いたしておりませんが、今後も引き続き社会情勢等の変化を注視しつつ弾力的な検討を行なってまいります。

## 連結貸借対照表

(2024年12月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目                | 金 額           | 科 目                  | 金 額           |
|--------------------|---------------|----------------------|---------------|
| <b>(資 産 の 部)</b>   |               | <b>(負 債 の 部)</b>     |               |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>30,340</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>32,991</b> |
| 現金及び預金             | 4,124         | 支払手形及び買掛金            | 3,311         |
| 受取手形及び売掛金          | 5,381         | 電子記録債務               | 5,221         |
| 有価証券               | 111           | 未払金                  | 3,571         |
| 商品及び製品             | 15,560        | 短期借入金                | 19,200        |
| 原材料及び貯蔵品           | 74            | 1年内返済予定の長期借入金        | 160           |
| 前渡金                | 755           | 未払法人税等               | 264           |
| 未収入金               | 3,649         | 賞与引当金                | 45            |
| その他                | 719           | その他                  | 1,215         |
| 貸倒引当金              | △35           | <b>固 定 負 債</b>       | <b>2,778</b>  |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>32,826</b> | 預り保証金                | 417           |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>24,253</b> | 長期借入金                | 1,849         |
| 建物及び構築物            | 10,312        | 繰延税金負債               | 299           |
| 機械装置及び運搬具          | 9,190         | 資産除去債務               | 131           |
| 土地                 | 4,335         | その他                  | 81            |
| 建設仮勘定              | 22            | <b>負 債 合 計</b>       | <b>35,770</b> |
| その他                | 392           | <b>(純 資 産 の 部)</b>   |               |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>1,594</b>  | <b>株 主 資 本</b>       | <b>26,103</b> |
| ソフトウェア             | 987           | 資本金                  | 10            |
| のれん                | 473           | 利益剰余金                | 26,094        |
| その他                | 133           | 自己株式                 | △0            |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>6,978</b>  | <b>その他の包括利益累計額</b>   | <b>△8</b>     |
| 投資有価証券             | 6,021         | その他有価証券評価差額金         | △6            |
| 繰延税金資産             | 319           | 繰延ヘッジ損益              | △1            |
| その他                | 716           | <b>非 支 配 株 主 持 分</b> | <b>1,301</b>  |
| 貸倒引当金              | △78           | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>27,396</b> |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>63,166</b> | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>63,166</b> |

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2024年1月1日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額   |        |
|-----------------|-------|--------|
| 売上高             |       | 67,493 |
| 売上原価            |       | 46,205 |
| 売上総利益           |       | 21,287 |
| 販売費及び一般管理費      |       | 18,793 |
| 営業利益            |       | 2,493  |
| 営業外収入           |       |        |
| 受取利息及び配当金       | 47    |        |
| 賃貸収入            | 18    |        |
| 持分法による投資利益      | 19    |        |
| 受取補償金           | 70    |        |
| その他             | 50    | 205    |
| 営業外費用           |       |        |
| 支払利息            | 61    |        |
| 為替差損            | 9     |        |
| その他             | 6     | 77     |
| 経常利益            |       | 2,621  |
| 特別利益            |       |        |
| 固定資産売却益         | 21    |        |
| 負債のれん発生益        | 4,816 | 4,838  |
| 特別損失            |       |        |
| 固定資産除売却損失       | 9     |        |
| 減損              | 44    |        |
| 投資有価証券償還        | 51    |        |
| 段階取得に係る差損       | 272   |        |
| その他             | 3     | 381    |
| 税金等調整前当期純利益     |       | 7,078  |
| 法人税、住民税及び事業税    | 800   |        |
| 法人税等調整額         | △23   | 777    |
| 当期純利益           |       | 6,301  |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 |       | 34     |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |       | 6,266  |

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

## 連結株主資本等変動計算書

(2024年1月1日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

|                                 | 株 主 資 本 |        |      |        |
|---------------------------------|---------|--------|------|--------|
|                                 | 資 本 金   | 利益剰余金  | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当 期 首 残 高                       | 10      | 20,079 | △0   | 20,088 |
| 当 期 変 動 額                       |         |        |      |        |
| 剰 余 金 の 配 当                     |         | △252   |      | △252   |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益         |         | 6,266  |      | 6,266  |
| 自 己 株 式 の 取 得                   |         |        | △0   | △0     |
| 株主資本以外の項目の<br>当 期 変 動 額 ( 純 額 ) |         |        |      |        |
| 当 期 変 動 額 合 計                   | -       | 6,014  | △0   | 6,014  |
| 当 期 末 残 高                       | 10      | 26,094 | △0   | 26,103 |

|                                 | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |             |                   | 非支配<br>株主持分 | 純 資 産<br>合 計 |
|---------------------------------|-----------------------|-------------|-------------------|-------------|--------------|
|                                 | その他有価証券<br>評価差額金      | 繰延ヘッジ<br>損益 | その他の包括利<br>益累計額合計 |             |              |
| 当 期 首 残 高                       | △30                   | -           | △30               | 80          | 20,139       |
| 当 期 変 動 額                       |                       |             |                   |             |              |
| 剰 余 金 の 配 当                     |                       |             |                   |             | △252         |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益         |                       |             |                   |             | 6,266        |
| 自 己 株 式 の 取 得                   |                       |             |                   |             | △0           |
| 株主資本以外の項目の<br>当 期 変 動 額 ( 純 額 ) | 23                    | △1          | 22                | 1,220       | 1,242        |
| 当 期 変 動 額 合 計                   | 23                    | △1          | 22                | 1,220       | 7,257        |
| 当 期 末 残 高                       | △6                    | △1          | △8                | 1,301       | 27,396       |

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 13社
- ・連結子会社の名称 株式会社デンタルフィット、株式会社デミライン、株式会社RayVision、株式会社C i ロジスティクスセンター、株式会社サクラ歯研、株式会社T D S、株式会社ナイキ歯研、株式会社ニッセンホールディングス、株式会社ニッセン、株式会社ニッセンライフ、株式会社アド究舎、株式会社マロンスタイル、株式会社白鳩
- ・連結の範囲の変更 株式会社ニッセンホールディングスの株式取得により、2024年7月より同社及びその子会社4社を連結の範囲に含めております。また、持分法適用関連会社であった株式会社白鳩の株式の追加取得により、2024年12月より同社を連結子会社として連結の範囲に含めております。

##### ② 非連結子会社の状況

- ・主要な会社の名称 株式会社クラブメディア
- ・連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は小規模であり、同社の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法適用の非連結子会社及び関連会社

- ・持分法を適用した非連結子会社の数 該当する事項はありません。
- ・持分法を適用した関連会社の数 1社
- ・持分法を適用した関連会社の名称 ニッセン・クレジットサービス株式会社
- ・持分法の範囲の変更 株式会社ニッセンホールディングスの株式取得により、2024年7月よりニッセン・クレジットサービス株式会社を持分法の範囲に含めております。  
また、持分法適用関連会社であった株式会社白鳩の株式の追加取得により、2024年12月より同社を連結子会社として連結の範囲に含めております。

##### ② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社

- ・主要な会社の名称 株式会社クラブメディア
- ・持分法適用の範囲から除いた理由 非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち株式会社サクラ歯研、株式会社TDS、株式会社ナイキ歯研、株式会社ニッセンホールディングス、株式会社ニッセン、株式会社ニッセンライフ、株式会社アド究舎及び株式会社マロンスタイルの8社の決算日は、11月30日であります。

また、株式会社白鳩の決算日は2月28日であるため、連結計算書類の作成に当たっては、直近の四半期決算を基にした仮決算により作成した財務諸表を使用しております。

ただし、これらの決算日から連結決算日12月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの

連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

- ・市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

ロ. デリバティブ

時価法

ハ. 棚卸資産

- ・商品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

- ・貯蔵品

主として最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産

当社及び連結子会社は主として定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 3年～17年

ロ. 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

また、のれんについては見積り回収期間（8年～10年）に基づいております。ただし、金額が僅少なものは発生年度に全額償却しております。

八、リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

イ、貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ、賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

④ 収益及び費用の計上基準

当社グループは、歯愛メディカル事業において「通信販売事業」、「その他の事業」に係る商品の販売及び保守サービス等、ニッセン事業において「通信販売事業」、「その他の事業」に係る商品の販売、コールセンター、広告、物流サービス等に係る事業を営んでおります。

歯愛メディカル事業のうち、大型医療機器等の商品の販売については、顧客と約束した仕様及び品質の商品の引き渡しを履行義務として識別し、検収時点で顧客が当該商品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しているため、当該商品の検収時点で収益を認識しております。また、大型医療機器等以外の商品の販売については、顧客との契約に基づく商品の引き渡しを履行義務として識別し、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であると判断しているため、当該商品の出荷時点で収益を認識しております。

保守サービス等の役務提供取引については、時の経過にわたり履行義務が充足されると判断しているため、サービス提供期間に応じて均等按分し、収益を認識しております。また、当該役務提供取引のうち、当社グループが代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価で算定しております。また、履行義務の充足時点から概ね3ヶ月以内に支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

ニッセン事業のうち商品の販売については、顧客との契約に基づく商品の引き渡しを履行義務として識別し、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であると判断しているため、当該商品の出荷時点で収益を認識しております。一部の取引について、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

コールセンターサービスや広告、物流サービス等の役務提供取引については、役務提供完了時点で履行義務が充足されると判断しているため、サービスの提供完了時に収益を認識しております。

## ⑤ 重要なヘッジ会計の方法

### イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。ただし、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を採用しております。

### ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約取引に負担すべき額を計上しております。

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債務

### ハ. ヘッジ方針

社内規定に基づき、為替リスクをヘッジする目的で先物為替予約を行っております

### ニ. ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。なお、当連結会計年度末においては高い相関関係にあり、ヘッジは有効と判断しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 4. 連結貸借対照表に関する注記

|                          |          |
|--------------------------|----------|
| (1) 有形固定資産の減価償却累計額       | 4,160百万円 |
| (2) 流動負債「その他」のうち、契約負債の残高 | 110百万円   |

### (3) 担保に供している資産及び担保対債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

|    |          |
|----|----------|
| 建物 | 2,233百万円 |
| 土地 | 2,118百万円 |
| 計  | 4,351百万円 |

担保付債務は、次のとおりであります。

|               |          |
|---------------|----------|
| 短期借入金         | 1,000百万円 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 128百万円   |
| 長期借入金         | 1,792百万円 |
| 計             | 2,920百万円 |



(4) 財務制限条項

借入金のうち、一部の連結子会社が複数の金融機関との間で締結しているシンジケートローン契約に係る当連結会計年度末の残高合計2,920百万円には財務制限が定められております。

財務制限の詳細は以下のとおりであります。

(条項)

- ①各年度の決算期の末日における当該連結子会社単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日又は2022年2月に終了する決算期の末日における当該連結子会社単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上にそれぞれ維持すること。
- ②各年度の決算期に係る当該連結子会社単体の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ2期連続して経常損失を計上しないこと。
- ③各年度の決算期に係る当該連結子会社単体の損益計算書上の当期純損益に関して、それぞれ2期連続して当期純損失を計上しないこと。

(5) 財務維持要件

一部の連結子会社は株式会社三菱UFJ銀行を主幹事とする計5行によるシンジケートローン契約を締結しており、一定の財務維持要件が付されております。当連結会計年度において、当該財務維持要件に抵触しているため、2025年5月下旬までの期限で一部の連結子会社の旧本社売却義務が生じております。

なお、財務維持要件の抵触は当該連結子会社の期限の利益を逸失するものではありません。

(6) コミットメントライン契約

一部の連結子会社は、過去に締結したシンジケートローンのリファイナンスを行うため、シンジケートローン契約を締結しております。当該契約に基づく借入金未実行残高は以下のとおりであります。

|               |          |
|---------------|----------|
| コミットメントラインの総額 | 1,000百万円 |
| 借入実行残高        | 1,000百万円 |
| 差引未実行額        | —        |

(7) 保証債務

立替払契約利用顧客に対する保証債務

大型医療機器を購入した顧客が利用する立替払契約の信用購入あっせん会社への未払金残高に対して連帯保証を行っております。

|           |       |
|-----------|-------|
| 立替払契約利用顧客 | 47百万円 |
| 計         | 47百万円 |

## 5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数  
普通株式 50,000,000株

(2) 剰余金の配当に関する事項

### ① 配当金支払額等

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日         | 効力発生日      |
|----------------------|-------|--------|----------|-------------|------------|
| 2024年3月26日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 252百万円 | 25.22円   | 2023年12月31日 | 2024年3月27日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日         | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|--------|----------|-------------|------------|
| 2025年3月21日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 626百万円 | 12.53円   | 2024年12月31日 | 2025年3月24日 |

## 6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループの所要資金については、主に自己資金を充当しておりますが、設備投資計画に照らして必要な場合は銀行借入により調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金は自己資金又は銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、外貨建て取引における為替リスクを回避するためのみに利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

### ② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。未収入金は主に販売代金の回収を委託する営業債権であり、取引先の信用リスクに晒されております。また、有価証券及び投資有価証券は主に運用目的の外貨建て債券であり、市場価格及び為替の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務、未払金、未払法人税等は1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。借入金には主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

## ③ 金融商品に係るリスク管理体制

## イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、営業債権について、各事業部門において主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

## ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、有価証券及び投資有価証券について、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。借入金の金利変動リスクについては、金利動向を注視し、必要に応じて対策を図ることとしております。

## ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

2024年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

|                     | 連結貸借対照表計上額 | 時 価   | 差 額 |
|---------------------|------------|-------|-----|
| ① 有 価 証 券           | 111        | 111   | －   |
| ② 投 資 有 価 証 券       | 41         | 41    | －   |
| 資 産 計               | 152        | 152   | －   |
| ① 長期借入金（1年内返済予定を含む） | 2,010      | 2,010 | －   |
| 負 債 計               | 2,010      | 2,010 | －   |
| デリバティブ取引（注3）        | 7          | 7     | －   |

(注) 1. 現金及び預金、受取手形及び売掛金、未収入金、支払手形及び買掛金、電子記録債務、未払金、未払法人税等、短期借入金については、現金であること、および短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注) 2. 市場価格のない株式等は、「②投資有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

| 区 分            | 連結貸借対照表計上額 |
|----------------|------------|
| その他有価証券（非上場株式） | 564        |
| 関係会社株式         | 5,416      |
| 計              | 5,980      |

(注) 3. デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目について△で示しております。

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

① 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品

(単位：百万円)

| 区分           | 時価   |      |      |     |
|--------------|------|------|------|-----|
|              | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計  |
| 有価証券及び投資有価証券 |      |      |      |     |
| その他有価証券      |      |      |      |     |
| 株式           | 20   | —    | —    | 20  |
| 債券           | —    | 132  | —    | 132 |
| デリバティブ取引     | —    | 7    | —    | 7   |
| 資産計          | 20   | 139  | —    | 159 |

② 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

| 区分                | 時価   |       |      |       |
|-------------------|------|-------|------|-------|
|                   | レベル1 | レベル2  | レベル3 | 合計    |
| 長期借入金（1年内返済予定を含む） | －    | 2,010 | －    | 2,010 |
| 負債計               | －    | 2,010 | －    | 2,010 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明  
有価証券及び投資有価証券

株式は上場株式であり取引所の価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

債券は取引金融機関から提示された時価情報に期末日現在の為替レートを用いて評価しており、レベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

取引金融機関から提示された価格等を用いて評価しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、信用状態は実行後大きく異なっていないことから、帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっており、レベル2の時価に分類しております。

## 7. 賃貸等不動産に関する注記

当社グループでは、石川県及び京都府において、賃貸用のビル等を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は140百万円であります。賃貸収益は主に売上高に、賃貸費用は売上原価に計上しております。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

|            |       | 当連結会計年度 |
|------------|-------|---------|
| 連結貸借対照表計上額 |       |         |
|            | 期首残高  | 47      |
|            | 期中増減額 | 922     |
|            | 期末残高  | 970     |
| 期末時価       |       | 978     |

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額の内、当連結会計年度の主な増加額は、(株)ニッセンホールディングス及び(株)白鳩を連結子会社化したことによる増加(922百万円)等であります。
3. 期末の時価は、主要な物件については不動産鑑定評価書に基づく金額であります。

## 8. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、顧客との契約から生じる収益を、収益認識の時期別に分解しております。これらの分解した収益と各事業内容の収益との関連は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

|                        | 事業内容      |        |      | 合計     |
|------------------------|-----------|--------|------|--------|
|                        | 歯愛メディカル事業 | ニッセン事業 | 白鳩事業 |        |
| 収益認識の時期                |           |        |      |        |
| 一時点で移転される財またはサービス      | 49,577    | 17,564 | —    | 67,142 |
| 一定の期間にわたり移転される財またはサービス | 186       | —      | —    | 186    |
| 計                      | 49,764    | 17,564 | —    | 67,329 |
| 顧客との契約から生じる収益          | 49,764    | 17,564 | —    | 67,329 |
| その他の収益                 | 4         | 159    | —    | 163    |
| 外部顧客への売上高              | 49,769    | 17,724 | —    | 67,493 |

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報  
 収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 (4)会計方針に関する事項 ④収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

- ① 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等  
 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

|               | 当連結会計年度期首残高 | 当連結会計年度末残高 |
|---------------|-------------|------------|
| 顧客との契約から生じた債権 | 3,289       | 5,381      |
| 契約負債          | 45          | 110        |

(注) 1. 当連結会計年度に認識した収益のうち、期首時点の契約負債に含まれていた額は29百万円であります。

2. 契約負債の増減は、前受金の受取り及び株式会社ニッセンホールディングス及び株式会社白鳩の株式取得による連結子会社化(契約負債の増加)と、収益認識(同、減少)により生じたものであります。

- ② 残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度末における残存履行義務に配分された取引価格の総額は、110百万円であり、当社グループは、当該残存履行義務について、履行義務の充足につれて1年から8年の間で収益を認識することを見込んでいます。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 521円91銭  
 (2) 1株当たり当期純利益 125円34銭

(注) 当社は2024年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。  
 当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株あたり純資産額および1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## 10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 11. 企業結合に関する注記

### 取得による企業結合

(株式会社ニッセンホールディングスの取得)

当社は、2024年5月9日開催の取締役会において、株式会社ニッセンホールディングス（以下、「ニッセンホールディングス」といいます。）の全株式を取得し、子会社化することを決議いたしました。また、同日付けで株式譲渡契約を締結し、2024年7月1日付けで全株式を取得いたしました。

#### (1) 企業結合の概要

##### ① 被取得企業の名称及びその事業内容

|          |                                                                  |
|----------|------------------------------------------------------------------|
| 被取得企業の名称 | 株式会社ニッセンホールディングス                                                 |
| 事業の内容    | ニッセングループ成長戦略の立案、ニッセングループポートフォリオの設計とM&A等による新規事業開発、ニッセングループ経営執行の監督 |

##### ② 企業結合を行った主な理由

ニッセンホールディングスは、幅広い年齢層の女性顧客を全国に有しており、アパレルをはじめとした女性が必要としている商品を取り扱っておられ、「想像以上の「あったらいいな」を。期待以上の「ちょっといいな」を。」をミッションとし、定番品から顧客のニッチなニーズを汲み取った商品開発まで手掛けています。

当社が取引している歯科医院をはじめとした医療機関では圧倒的に女性医療従事者が多いため、当社が持つ女性医療従事者へアクセスできる環境と同社の持つ商品開発力を合わせることで、女性の持つ潜在ニーズに対応した事業を協働で展開でき、両社の企業価値の向上に資すると判断し、株式を取得し子会社化しました。

##### ③ 企業結合日

2024年7月1日（みなし取得日 2024年5月31日）

##### ④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

##### ⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

##### ⑥ 取得した議決権比率

100%

##### ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

#### (2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2024年6月1日から2024年11月30日まで

#### (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

|          |          |
|----------|----------|
| 取得の対価 現金 | 4,100百万円 |
| 取得原価     | 4,100百万円 |



- (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額  
 アドバイザリー費用等 102百万円

- (5) 発生した負ののれん発生益の金額及び発生原因

- ① 発生した負ののれん発生益の金額

4,509百万円

- ② 発生原因

被取得企業の企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上するものです。

- (6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

|      |           |
|------|-----------|
| 流動資産 | 10,697百万円 |
| 固定資産 | 6,685百万円  |
| 資産合計 | 17,383百万円 |
| 流動負債 | 8,421百万円  |
| 固定負債 | 352百万円    |
| 負債合計 | 8,773百万円  |

- (7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

|      |           |
|------|-----------|
| 売上高  | 17,747百万円 |
| 営業損失 | △781百万円   |

- (概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算出された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

- (株式会社白鳩の取得)

当社は、2024年11月15日開催の取締役会において、株式会社白鳩（以下、「白鳩」といいます。）の普通株式を公開買付けにより取得することを決議し、公開買付けを2024年11月18日から2024年12月13日まで実施いたしました。この結果、同社は2024年12月20日をもって当社の連結子会社となりました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 株式会社白鳩  
事業の内容 インナーウェアのインターネット販売

② 企業結合を行った主な理由

当社は2024年7月1日に女性向け商材を中心に通販事業を展開しているニッセンホールディングスをグループに加えております。ニッセンホールディングスは多くの女性顧客を有していることから、当該顧客を軸に白鳩の通販サイトの顧客及び当社の顧客である医療機関等で働く女性医療従事者を相互に活用した事業モデルを新たに構築していくことが当社グループの企業価値の向上に資すると判断し、株式を取得し子会社化しました。

③ 企業結合日

2024年12月20日（みなし取得日 2024年11月30日）

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 追加取得後の議決権比率

企業結合直前の議決権比率：33.2%

追加取得後の議決権比率：50.3%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

当連結会計年度においては貸借対照表のみを連結しており、連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。なお、被取得企業は持分法適用関連会社であったため、2023年12月1日から2024年11月30日までの業績は持分法による投資損益として計上しております。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 企業結合直前に所有していた持分の企業結合日における時価 | 574百万円 |
| 追加取得に伴い支出した金額 現金            | 318百万円 |
| 取得原価                        | 893百万円 |

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等 49百万円

(5) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損 272百万円

(6) 発生した負ののれん発生益の金額及び発生原因

① 発生した負ののれん発生益の金額

307百万円

② 発生原因

被取得企業の企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上するものです。

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

|      |          |
|------|----------|
| 流動資産 | 2,443百万円 |
| 固定資産 | 4,513百万円 |
| 資産合計 | 6,956百万円 |
| 流動負債 | 2,427百万円 |
| 固定負債 | 2,141百万円 |
| 負債合計 | 4,569百万円 |

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

|      |          |
|------|----------|
| 売上高  | 6,108百万円 |
| 営業利益 | 0百万円     |

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算出された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

12. その他の注記

(減損損失に関する注記)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

ニッセン事業

(単位：百万円)

| 場所  | 用途   | 種類          | 減損損失 |
|-----|------|-------------|------|
| 京都市 | 事業資産 | 建物          | 0    |
|     |      | ソフトウェア      | 23   |
|     |      | その他(有形固定資産) | 21   |

当社グループは、事業の種類毎に資産をグルーピングしており、事業資産については収益性の低下を勘案し、投資額の回収が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

# 貸借対照表

(2024年12月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額           | 科 目             | 金 額           |
|-----------------|---------------|-----------------|---------------|
| <b>(資産の部)</b>   |               | <b>(負債の部)</b>   |               |
| <b>流動資産</b>     | <b>15,465</b> | <b>流動負債</b>     | <b>22,007</b> |
| 現金及び預金          | 1,380         | 買掛金             | 1,682         |
| 売掛金             | 3,369         | 未払金             | 1,947         |
| 有価証券            | 111           | 短期借入金           | 18,100        |
| 商品及び製品          | 8,320         | 未払法人税等          | 67            |
| 原材料及び貯蔵品        | 28            | 賞与引当金           | 8             |
| 前渡金             | 721           | その他の            | 201           |
| 未収入金            | 1,448         | <b>固定負債</b>     | <b>426</b>    |
| その他             | 116           | 預り保証金           | 417           |
| 貸倒引当金           | △32           | その他             | 9             |
| <b>固定資産</b>     | <b>27,719</b> | <b>負債合計</b>     | <b>22,434</b> |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>19,552</b> | <b>(純資産の部)</b>  |               |
| 建物              | 7,681         | <b>株主資本</b>     | <b>20,756</b> |
| 構築物             | 310           | 資本金             | 10            |
| 機械及び装置          | 9,091         | 利益剰余金           | 20,747        |
| 車両運搬具           | 9             | 利益準備金           | 2             |
| 工具、器具及び備品       | 305           | その他利益剰余金        | 20,745        |
| 土地              | 2,133         | 繰越利益剰余金         | 20,745        |
| 建設仮勘定           | 20            | <b>自己株式</b>     | <b>△0</b>     |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>956</b>    | <b>評価・換算差額等</b> | <b>△6</b>     |
| ソフトウェア          | 897           | その他有価証券評価差額金    | △6            |
| ソフトウェア仮勘定       | 56            | <b>純資産合計</b>    | <b>20,750</b> |
| その他             | 2             | <b>負債純資産合計</b>  | <b>43,184</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>7,210</b>  |                 |               |
| 投資有価証券          | 228           |                 |               |
| 関係会社株式          | 6,684         |                 |               |
| 出資金             | 0             |                 |               |
| 長期貸付金           | 50            |                 |               |
| 繰延税金資産          | 248           |                 |               |
| その他             | 50            |                 |               |
| 貸倒引当金           | △51           |                 |               |
| <b>資産合計</b>     | <b>43,184</b> |                 |               |

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(2024年1月1日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目          | 金 額    |
|--------------|--------|
| 売上高          | 47,068 |
| 売上原価         | 36,023 |
| 売上総利益        | 11,045 |
| 販売費及び一般管理費   | 9,587  |
| 営業利益         | 1,458  |
| 営業外収益        |        |
| 受取利息及び配当金    | 216    |
| 受取補償金        | 62     |
| その他          | 36     |
| 営業外費用        |        |
| 支払利息         | 61     |
| 為替差損         | 9      |
| その他          | 3      |
| 経常利益         | 1,699  |
| 特別利益         |        |
| 固定資産売却益      | 17     |
| 特別損失         |        |
| 投資有価証券償還損    | 51     |
| 固定資産除売却損     | 3      |
| その他          | 3      |
| 税引前当期純利益     | 1,659  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 510    |
| 法人税等調整額      | △19    |
| 当期純利益        | 1,167  |

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

## 株主資本等変動計算書

(2024年1月1日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |                |               |      |        |
|-------------------------|---------|-----------|----------------|---------------|------|--------|
|                         | 資 本 金   | 利 益 剰 余 金 |                |               | 自己株式 | 株主資本合計 |
|                         |         | 利 準 備 金   | その他利益<br>剰 余 金 | 繰越利益<br>剰 余 金 |      |        |
| 当 期 首 残 高               | 10      | 2         | 19,830         | 19,832        | △0   | 19,842 |
| 当 期 変 動 額               |         |           |                |               |      |        |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |           | △252           | △252          |      | △252   |
| 当 期 純 利 益               |         |           | 1,167          | 1,167         |      | 1,167  |
| 自己株式の取得                 |         |           |                |               | △0   | △0     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |         |           |                |               |      |        |
| 当 期 変 動 額 合 計           | -       | -         | 914            | 914           | △0   | 913    |
| 当 期 末 残 高               | 10      | 2         | 20,745         | 20,747        | △0   | 20,756 |

|                         | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |                        | 純資産合計  |
|-------------------------|------------------|------------------------|--------|
|                         | その他有価証<br>券評価差額金 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |        |
| 当 期 首 残 高               | △30              | △30                    | 19,811 |
| 当 期 変 動 額               |                  |                        |        |
| 剰 余 金 の 配 当             |                  |                        | △252   |
| 当 期 純 利 益               |                  |                        | 1,167  |
| 自己株式の取得                 |                  |                        | △0     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) | 23               | 23                     | 23     |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 23               | 23                     | 938    |
| 当 期 末 残 高               | △6               | △6                     | 20,750 |

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

## (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

## (2) デリバティブ 時価法

## (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

① 商品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

② 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

## (4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

構築物 10～15年

機械及び装置 4～17年

車両運搬具 3～7年

工具、器具及び備品 2～15年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

## (5) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

#### (6) 収益及び費用の計上基準

当社は、「通信販売事業」、「その他の事業」に係る商品の販売及び保守サービス等に係る事業を営んでおります。

これらの事業のうち、大型医療機器等の商品の販売については、顧客と約束した仕様及び品質の商品の引き渡しを履行義務として識別し、検収時点で顧客が当該商品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しているため、当該商品の検収時点で収益を認識しております。また、大型医療機器等以外の商品の販売については、顧客との契約に基づく商品の引き渡しを履行義務として識別し、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間であると判断しているため、当該商品の出荷時点で収益を認識しております。

保守サービス等の役務提供取引については、時の経過にわたり履行義務が充足されると判断しているため、サービス提供期間に応じて均等按分し、収益を認識しております。また、当該役務提供取引のうち、当社が代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価で算定しております。また、履行義務の充足時点から概ね3ヶ月以内に支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

なお、収益は顧客との契約において約束された対価をもって測定しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 4. 貸借対照表に関する注記

(1) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は以下のとおりです。

|                |        |
|----------------|--------|
| 関係会社に対する短期金銭債権 | 415百万円 |
| 関係会社に対する長期金銭債権 | 50百万円  |
| 関係会社に対する短期金銭債務 | 208百万円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 3,828百万円



## (3) 保証債務

## ① 関係会社に対する保証債務

以下の関係会社の債務に対して債務保証を行っております。

|              |       |
|--------------|-------|
| 株式会社デンタルフィット | 28百万円 |
| 計            | 28百万円 |

株式会社デンタルフィットの日本郵便株式会社に対する後納郵便料金に対する支払保証であり、保証限度額は100百万円であります。

|                  |       |
|------------------|-------|
| 株式会社ニッセンホールディングス | 72百万円 |
| 計                | 72百万円 |

株式会社ニッセンホールディングスのリース契約に対する債務保証であります。

## ② 立替払契約利用顧客に対する保証債務

大型医療機器を購入した顧客が利用する立替払契約の信用購入あっせん会社への未払金残高に対して連帯保証を行っております。

|           |       |
|-----------|-------|
| 立替払契約利用顧客 | 47百万円 |
| 計         | 47百万円 |

## 5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

関係会社との取引高は以下のとおりであります。

営業取引

|         |          |
|---------|----------|
| (1) 売上高 | 3,084百万円 |
| (2) 仕入高 | 1,188百万円 |
| (3) その他 | 579百万円   |

営業取引以外の取引高 174百万円

## 6. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の種類及び総数

普通株式 941株

## 7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|              |        |
|--------------|--------|
| 賞与引当金        | 3百万円   |
| 棚卸資産評価損      | 147百万円 |
| 投資有価証券評価損    | 42百万円  |
| 貸倒引当金繰入超過額   | 25百万円  |
| 未払事業税        | 5百万円   |
| その他有価証券評価差額金 | 3百万円   |
| その他          | 22百万円  |
| 繰延税金資産合計     | 248百万円 |
| 繰延税金資産の純額    | 248百万円 |

## 8. 関連当事者との取引に関する注記

記載すべき重要な事項はありません。

## 9. 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表（8. 収益認識に関する注記）（1）顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## 10. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 415円02銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 23円34銭  |

(注) 当社は2024年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。

当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株あたり純資産額および1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## 11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 12. その他の注記

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2025年2月21日

株式会社歯愛メディカル  
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人  
富山オフィス

|                    |       |    |    |
|--------------------|-------|----|----|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 藤本 | 幸宏 |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 橋本 | 浩史 |

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社歯愛メディカルの2024年1月1日から2024年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社歯愛メディカル及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

招集通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

2025年2月21日

株式会社歯愛メディカル  
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人  
富山オフィス

|                    |       |    |    |
|--------------------|-------|----|----|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 藤本 | 幸宏 |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 橋本 | 浩史 |

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社歯愛メディカルの2024年1月1日から2024年12月31日までの第25期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2024年1月1日から2024年12月31日までの第25期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
  - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年2月25日

株式会社歯愛メディカル 監査役会

常勤監査役 宮 下 友 保 ㊟

社外監査役 園 部 敏 之 ㊟

社外監査役 斉 藤 一 浩 ㊟

以 上



## 株主総会参考書類

招集通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

本議案は、当社の利益配分に関する基本方針に基づき、期末配当をさせていただきたくご承認をお願いするものです。

当社は、継続的な企業価値の向上を図るべく経営基盤の強化を進めていくと同時に、株主への利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。このため、剰余金の配当につきましては、中長期的な成長のための戦略的投資等に必要な内部留保の充実に留意しつつ、親会社株主に帰属する当期純利益の約10%を配当性向の目標として、将来にわたって業績に見合った安定的な配当を行うことを基本方針としております。つきましては、2024年12月期の期末の普通配当については、当社の利益配分に関する基本方針に基づき、連結財務状況、通期の連結業績等を勘案の上、1株当たり12円53銭といたしました。

次期以降の剰余金の配当については、経済産業省「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の入金による財務体質の向上を見込んでいることから、そうした状況等も勘案した上で、利益配分に関する基本方針の見直しを検討してまいります。

当期の剰余金の配当につきましては、以上の方針に基づき次のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

1. 配当財産の種類 金銭
2. 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金12円53銭  
配当総額 626,488,209円 (配当の原資 利益剰余金)
3. 剰余金の配当が効力を生じる日  
2025年3月24日

## 第2号議案 取締役7名選任の件

本議案は、本総会終結の時をもって取締役7名全員が任期満了となるため、取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | 氏名<br>(生年月日)          | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 所有する当<br>社の株式数<br>(千株) |
|-----------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1         | 清水 清人<br>(1960年9月16日) | 1987年9月 しいあい歯科医院 開業 院長<br>2000年1月 当社設立 代表取締役社長 (現任)<br>2008年4月 (株)デンタルフィット 代表取締役社長<br>2013年7月 歯愛国際有限公司 董事<br>2016年9月 (株)RayVision 代表取締役社長<br>2017年3月 (株)デンタルフィット 代表取締役会長 (現任)<br>2017年3月 (株)デミライン 代表取締役会長 (現任)<br>2021年4月 (株)C i ロジスティクスセンター 代表取締役社長 (現任)<br>2024年7月 (株)ニッセンホールディングス 代表取締役会長 (現任)                    | 23,364                 |
| 2         | 小林 良充<br>(1976年4月7日)  | 1999年5月 (株)アールエフ 入社<br>2009年1月 InteregatedDentalSolution,Inc. 入社<br>2011年10月 (株)テレシテムズ 入社<br>2016年2月 タカラテレシテムズ(株) 入社<br>2017年5月 アルゴグローバル(株) 設立<br>2017年12月 ACTIVBODY,Inc.SeniorWellnessSolutioninJapan代表<br>2019年3月 当社執行役員海外事業部長<br>2020年3月 当社取締役海外事業部長<br>2021年3月 当社専務取締役 (現任)<br>2024年3月 (株)RayVision 代表取締役社長 (現任) | -                      |

| 候補者<br>番号 | ふり<br>氏<br>がな<br>名<br>(生年月日)           | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当<br>社の株式数<br>(千株) |
|-----------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 3         | やま うち まさ はる<br>山 内 昌 晴<br>(1964年5月25日) | 1988年4月 村井眼鏡工業(株) (現株村井) 入社<br>1994年3月 同取締役海外事業部長兼経営企画室長<br>2003年11月 新道繊維工業株式会社 (現株SHINDO) 入社<br>2005年7月 同執行役員日欧米事業統括<br>2012年3月 同繊維カンパニー社長<br>2015年5月 (株)第一入社<br>2015年11月 同取締役社長室長<br>2020年3月 当社執行役員人事部長<br>2021年3月 当社常務取締役 (現任)<br>2024年5月 (株)白鳩 取締役 (現任)<br>2024年7月 (株)ニッセンホールディングス 取締役 (現任) | -                      |
| 4         | かわ ばた なお のり<br>河 端 直 典<br>(1975年1月2日)  | 1999年4月 オリオン電機(株) 入社<br>2007年5月 (株)日本運搬社 入社<br>2010年5月 当社入社<br>2017年4月 当社ロジスティクスセンター部長<br>2020年3月 当社執行役員ロジスティクスセンター長<br>2024年3月 当社取締役ロジスティクスセンター長 (現任)                                                                                                                                          | -                      |
| 5         | た じま だい すけ<br>田 島 大 輔<br>(1978年6月16日)  | 2001年4月 エア・ウォーター(株) 入社<br>2017年10月 同IT推進室基幹システム展開グループリーダー<br>2021年10月 同グループ調達室部長<br>2022年11月 同調達室部長兼電力事業改革室部長<br>2025年1月 エア・ウォーター東日本(株) 出向<br>経営管理部長 (現任)                                                                                                                                       | -                      |
| 6         | おく ざわ あきら<br>奥 澤 明<br>(1958年11月13日)    | 1982年4月 日本カーボン(株) 入社<br>2006年4月 同社総合企画部担当部長<br>2012年6月 NGSアドバンストファイバー(株) 出向<br>代表取締役社長<br>2015年1月 日本カーボン(株) 執行役員<br>2015年3月 日本カーボンエンジニアリング(株) 出向<br>代表取締役社長<br>2017年3月 当社社外取締役 (現任)                                                                                                             | -                      |

招集し通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

| 候補者<br>番号 | 氏名<br>(生年月日)                    | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                               | 所有する当<br>社の株式数<br>(千株) |
|-----------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 7         | ひらの しげき<br>平野茂樹<br>(1952年8月30日) | 1977年4月 大阪瓦斯(株)入社<br>2004年6月 同社エネルギー技術研究所長<br>2005年6月 同社取締役<br>2008年6月 同社常務取締役 技術統括 兼 技術開発本部長<br>2009年6月 同社取締役 常務執行役員、ガス製造・発電事業部長<br>2012年4月 Osaka Gas Australia Pty Ltd代表取締役会長<br>2015年5月 近畿化学協会 会長<br>2016年6月 京都大学大学院工学研究科 非常勤講師 (現任)<br>2018年6月 大阪府市公立大学法人大阪評価委員<br>2022年3月 当社社外取締役 (現任) | -                      |

- (注) 1. 取締役の任期は、2025年3月21日開催の第25期定時株主総会の終結の時から、2025年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
2. 取締役候補者清水清人氏は、会社法第2条第4号の2に定める親会社等であります。
3. 取締役候補者のうち、奥澤明氏及び平野茂樹氏は、会社法施行規則第2条第3項第7号に定める社外取締役候補者であります。
4. 奥澤明氏を社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要は、前職において上場会社の執行役員及び子会社の社長としての豊富な経験と高い見識を有しており、これらの経験と見識を引き続き、当社経営に活かしていただけるものと判断したためであります。
5. 奥澤明氏は、2017年3月から当社の社外取締役に就任しており、その就任期間は本総会終結の時をもって8年間となります。
6. 平野茂樹氏を社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要は、前職において上場会社の取締役及び海外子会社の会長としての豊富な経験と高い見識を有しており、これらの経験と見識を当社経営に活かしていただけるものと判断したためであります。
7. 平野茂樹氏は、2022年3月から当社の社外取締役に就任しており、その就任期間は本総会終結の時をもって3年間となります。
8. 当社は、奥澤明氏及び平野茂樹氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。両氏が再任された場合は、当社は引き続き両氏を独立役員とする予定であります。
9. 当社は執行役員制度を導入しており、期末日現在の執行役員数は4名であり、取締役との兼務はございません。
10. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、これにより当社のすべての取締役、監査役が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害（ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当するものは除く。）等を補填することとしております。なお、役員等賠償責任保険契約の保険料は、全額を当社が負担しております。各候補者が取締役に選任され就任した場合には、いずれの取締役も役員等賠償責任保険契約の被保険者となる予定であります。役員等賠償責任保険契約の契約期間は1年間であり、当該期間の満了前に取締役会において決議のうえ、同内容でこれを更新する予定です。

### 取締役候補者の役割・スキル・専門性について

コーポレートガバナンスに関する基本方針では、取締役会の体制として「多様で豊富な知見を有する取締役にて構成する」と定めております。多様性を確保し、各個人が異なる経験や専門性からの意見・提言による活発な議論は、取締役会の監督機能と意思決定機能の強化につながるものと考えております。

取締役候補者の経験・スキル・専門性は以下のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | 氏名                 | 独立役員 | 候補者が有する主な専門性・経験等 |      |              |       |     |              |
|-----------|--------------------|------|------------------|------|--------------|-------|-----|--------------|
|           |                    |      | 企業経営             | 財務会計 | 法務・リス<br>ク管理 | 営業・販売 | 国際性 | 業界・商品<br>の知見 |
| 1         | しみず きよと<br>清水 清人   |      | ●                |      |              | ●     | ●   | ●            |
| 2         | こばやし よしみつ<br>小林 良充 |      | ●                |      |              | ●     | ●   | ●            |
| 3         | やまうち まさはる<br>山内 昌晴 |      | ●                |      | ●            | ●     | ●   |              |
| 4         | かわばた なおのり<br>河端 直典 |      |                  |      | ●            |       |     | ●            |
| 5         | たじま だいすけ<br>田島 大輔  |      |                  | ●    | ●            |       |     |              |
| 6         | おくざわ あきら<br>奥澤 明   | ●    | ●                |      | ●            |       |     |              |
| 7         | ひらの しげき<br>平野 茂樹   | ●    | ●                |      | ●            |       | ●   |              |

### 第3号議案 監査役2名選任の件

本議案は、監査役3名のうち斉藤一浩氏が本総会終結の時をもって一身上の都合により退任、園部敏之氏が本総会終結の時をもって任期満了となるため、監査役2名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | ふり<br>氏<br>がな<br>名<br>(生年月日) | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                       | 所有する当<br>社の株式数<br>(千株) |
|-----------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1         | その<br>園部敏之<br>(1960年6月8日)    | 1983年4月(株)北陸銀行 入社<br>2003年6月 同行賢坂辻支店長<br>2005年12月(株)オーキッド 代表取締役社長<br>2011年6月(株)ランドバンク 入社<br>2017年3月 当社 社外監査役(現任)                                | —                      |
| 2         | ほん<br>本多将吾<br>(1979年9月28日)   | 2008年1月 エア・ウォーター(株) 入社<br>2019年10月 九州エア・ウォーター(株) 経理部長<br>2020年10月 エア・ウォーター西日本(株) 経営管理部長<br>2023年7月 エア・ウォーター(株) 連結管理室長<br>2024年7月 同社理事経営企画室長(現任) | —                      |

- (注) 1. 各監査役候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。
2. 園部敏之氏および本多将吾氏は、会社法施行規則第2条第3項第8号に定める社外監査役候補者であります。
3. 園部敏之氏を社外監査役候補者とした理由並びに園部敏之氏が社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断した理由は、以下のとおりであります。  
園部敏之氏は金融機関における長年の経験及び財務等に関する豊富な経験と高い見識を有しており、これらの経験と見識を当社の監査に活かしていただけるものと判断し、当社の社外監査役として選任をお願いするものであります。
4. 本多将吾氏を社外監査役候補者とした理由並びに本多将吾氏が社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断した理由は、以下のとおりであります。  
本多将吾氏はエア・ウォーター株式会社の連結管理室長及び経営企画室長を務め、財務会計並びに経営企画等に関する豊富な経験及び専門的な見地からの高い見識を有しており、これらの経験と見識を当社の監査に活かしていただけるものと判断し、当社の社外監査役として選任をお願いするものであります。
5. 園部敏之氏は、2017年3月から当社の社外監査役に就任しており、その就任期間は本総会終結の時をもって8年間となります。

6. 当社は、園部敏之氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。園部敏之氏が再任された場合は、当社は引き続き園部敏之氏を独立役員とする予定であります。
7. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、これにより当社のすべての取締役、監査役が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害（ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当するものは除く。）等を補填することとしております。なお、役員等賠償責任保険契約の保険料は、全額を当社が負担しております。各候補者が監査役に選任され就任した場合には、いずれの監査役も役員等賠償責任保険契約の被保険者となる予定であります。役員等賠償責任保険契約の契約期間は1年間であり、当該期間の満了前に取締役会において決議のうえ、同内容でこれを更新する予定です。

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場：株式会社歯愛メディカル 本社大ホール  
石川県能美市福島町に152番地  
TEL (076) 278-8802



## 交通手段

J R西日本「能美根上駅」で下車（東口側）いただき、当日は11:50から13:00の間、電車の到着時間に合わせてJR西日本「能美根上駅」（東口側）と株主総会会場の間を送迎いたしますので、ご利用ください。なお、総会当日送迎をご希望の株主様は、2025年3月19日（水）18:00までにご連絡いただきますようお願い申し上げます。（TEL:076-278-8802 経営管理部 担当まで）  
また、総会終了後も同区間を送迎いたします。

当日お車でお越しの株主様につきましては、株主総会会場に隣接しております当社駐車場（株主様専用エリア）をご利用いただきますようお願い申し上げます。

